

## 8月8日（火）その53 中学生の教え子に性的行為

8月4日（金）の県紙A社の、「中学教え子に性的行為」との見出しの総合面トップの報道は、ショッキングだった。本島南部の中学校の30代の男子教諭が、教え子の男子生徒に性的な行為をしたとして、児童福祉法違反の容疑で逮捕されたと報道している。

前に「その20 開いた口がふさがらない」（5.22）と題して、49才の中学校教頭が、盗撮目的でコンビニに入り逮捕された話をした。当然教育事務所や教育委員会、及び学校の管理職等による度重なる指導があったはずだ。その指導を受けた後の行為だから、確信犯である。被害生徒のことを考えると、いかなる理由があれども絶対に許されることではない。厳正な懲戒処分をしてほしいし、当然やると思うが、被害にあった生徒の心のケアに努めてもらいたい。

しかし今回の報道で、県紙B社の書き方は納得がいかない。被害者が特定される恐れがあるとして匿名報道になっているはずなのに、「糸満署管内」と報道している。糸満署管内には中学校は8つしかない。南部地区とだけ表現すれば、50校くらいある。

ここ数年、県紙B社は、教育問題等で落ち着いた記事が多かったのに……残念である。昨日、元中学校長として実名で県紙B社に苦情の電話をした。

勤務している中学校の校長は「教材研究もよくやるし、熱心に夜も遅くまで残っていた。とてもショックだ。」と話しているという。（県紙A社）

やってしまった事実の前には、むなしく響くだけである。「児童・生徒を自分の性的な対象とすることは、絶対にやっちゃいけないこと」とする認識はなかったのだろうか？自分の性欲の暴走を押さえることができなかったのだろうか？管理職からこれまでに何度も指導を受けたはずなのに、「自分だけは捕まらない」と、全く根拠のない自信があったのだろうか。

こういう事件が起きるたびに緊急校長会などが開かれて、教職員の服務規律の徹底と不祥事の未然防止等について緊急指導が行われる。指導する側も通知文の配布等の通り一遍の指導だけではなく、心に刻み込まれるような指導をお願いしたいものである。そして「何度でも」指導することである。管理職は大変だとは思いますが、引き続き学校の信頼回復のため、子ども達のために頑張っていたいただきたい。

先日の所内での「所長講話Ⅱ（90分）」で、私は校長時代に毎年一度は「性教育」をしていたという話をした。特に校長最後の2年間は全男子を対象に「第二次性徴期の特徴と性欲の押さえ方」をメインに50分の指導を行った。学校では女子に対する生理の指導や、危なっかしい生徒への個別指導は行われているが、男子全体に対する指導がなおざりにされていると、感じていた。

保健・体育の教科書を読んでみたが、性教育の部分もきれいにまとめられている。でも子どもの側からすれば、聞きたいことが山ほどあるはずだ。保健体育の先生には、ていねいに指導して欲しいと思う。

中学生にはもっと具体的なことを教えた方が良くと思う。例えば「マスターベーションについて」、「夢精について」、「セックスとは具体的にどうすることなのか」、「男の衝動的な性欲のコントロール」などであると思う。

30代の男性教諭は、そんな指導を受けた経験があるだろうか。

## 8月9日（水）その54 赤ちゃんは、なぜかわいいのか？

妻が私を捨てて家を出て行って、1か月になろうとしている。実は娘が東京に住んでいて、2番目の子どもの出産が間近なのです。8月中旬の出産予定なのに、妻は1か月も前に「孫育」のためいそいそと東京へでかけていきました。私の世話を放棄して……。 (笑)

さて、研究員のアカさんのところにアカちゃんが生まれましたね。おめでとうございます。もう10日くらいになるかな？すくすく成長していくことを願っています。私からマースデー（塩代＝お祝儀）を差し上げましょう。

さて一般的に赤ちゃんは、なぜかわいいのでしょうか？これから話すことは、昔何かで調べたのですが、本で調べたのか、ネットで調べたのか……出典を忘れてしまいました。一つの仮説としてお聞きください。

なぜ赤ちゃんがかわいいと感じるのかというと①体に対して頭が大きい。②目が大きく、頭の低い位置にある。③鼻や口が小っちゃく、ほっぺが膨らんでいる。④動きが世話したくなるほどぎこちない。などの理由からだそうです。

さらに赤ちゃんは驚くべき武器を持っています。それは「におい」です。ある研究では、母親だけじゃなくその他の女性も、赤ちゃんのにおいをかぐと脳内で快樂物質のドーパミンが分泌されることがわかっているそうです。

人間の脳は、巨大すぎるためにお腹の中で十分発達させると、外に出られなくなってしまうようです。そこで赤ちゃんは生まれた後で、脳を発達させることを体得しました。産道を通り抜けやすくするため、頭蓋骨も柔らかくて、きれいにくっついていません。生まれてから一年くらいかけて、脳が発達し、頭蓋骨が堅くなっていきます。そのとき気配り目配りをしてやらないと、後頭部が絶壁になってしまいます。「タッペー」とか、情け容赦ないあだ名をつけられてしまいますから、阿嘉さん気をつけてください (笑)。

赤ちゃんの脳は大人の4分の1ぐらいの大きさしかないそうです。1歳の誕生日を迎える頃には、成人の60%くらいになり、3才くらいまでに脳は、大人と同じぐらいの大きさになるそうです。

それから赤ちゃんは、周りの大人が笑うのを見て、「この表情は役に立つ」と学習するのだそうです。大人がこの顔つきをするときには私を保護してくれると理解し自分も笑うようになるのだそうです。身近な人の表情を真似することで、脳の発達を促し、コミュニケーションの土台を作っているのです。だから昔の人もよくやったように、何度も何度も語りかけたり、「いない、いないばあ」などをやることは、とても大事なことです。赤ちゃんは語りかける人の真似をして、だんだん音を発するようになります。「アー」とか「ウー」とか、大人にとっては意味のない音の断片ですが、これが「主体的・対話的で深い学び」の「はじめの一步」なのです。

動物の赤ちゃんは、生まれ落ちるとすぐに立ち上がり歩けるようになりますが、人間の赤ちゃんは一人では、歩くどころか首も持ち上げることもできません。気の遠くなるような進化の歴史の中で赤ちゃんが身につけた秘策が、自分を「かわいい」と思わせて、大人に保護してもらったことだったのです。私も昔、生まれたばかりの子どもを抱いて、「今は死ねない！」と強く思ったことがありました。阿嘉さんも、きっとそうでしょうね。

## 8月10日（木）その55 へき地からの逆照射

4日（金）、南部総合福祉センターの1階大ホールで、「島尻地区へき地校職員研修会」が開催されました。4離島村と久高小中の職員が一堂に会して、研修会が開催されるのである。前はこのような研修会はなかった。7～8回目くらいだろうか。とても素晴らしい研修会であると思う。私も大城譲次島尻教育事務所長（代読）と共に来賓あいさつで離島勤務の先生方を激励した。「島尻は一つ！」なのだ。教育研究所も島尻教育事務所同様、離島の学校のためにも頑張りたい。

さて、私の教員のスタートは八重山の5級へき地の学校でしたが、その頃に八重山出身の三木健さんの書いた「八重山近代民衆史」というハードカバーの分厚い本を買って読んだ。その本の中に、「へき地からの逆照射」という言葉がありました。中央からへき地が照らされるだけではなく、逆にへき地の方から中央を照らし返すのだと書かれていて、とてもすばらしい言葉だなあと感じました。本の内容はみんな忘れましたが、「へき地からの逆照射」という言葉だけは40年間私の心に刻み込まれております。

何かの本で「地域に包まれた教育活動」という言葉を見ました。すてきな言葉だと思いました。「地域ぐるみの取組をしている」と同じ意味です。「離島・へき地の子ども達は、地域に包まれているなあ、ありがたいことだなあ」と感じることがあります。子ども達は、自分たちの頑張りを地域の方に見ていただくことによって喜びを感じ、また頑張ろうという意欲につながっている。このつながりこそ、ふるさとを愛する心に広がっていくのではないかと考えます。

渡嘉敷村の阿波連の「ハナリ島遠泳」、渡嘉敷の「愛汗教育」、座間味の「サバニ帆漕レース」、「サンゴの研究」など。渡名喜の「水上運動会や朝起き会」、栗国のバドミントン部の活躍、久高の「追い込み漁」などの記事を新聞等によく見かけます。いずれも「地域に包まれた教育活動」だなと感じています。

新聞やテレビの報道でしか知りませんが、宮古地区では毎年高校入試の日に家族や親戚が、子ども達が受験する高校に集まり、重箱のお弁当を広げて、受験生を激励し支えてあげています。宮古のすべての高校でこのような光景を見ることができ、地域ぐるみの高校入試の風物詩になっているそうです。

私と同世代の宮古島出身の校長に聞いてみると、「自分たちが高校を受験した40年以上前から、高校の近くには食堂が少ないので、城辺などの遠くからくる生徒達は、家族がお弁当を持ってきて一緒に食べていた。」と話していました。「家族や親戚が支えていることを実感し、自分も頑張ろう。」とする意欲につながると感じます。そして遠くから来る受験生だけではなく、近くに住む子ども達も……宮古島全体に広がったのです。

宮古高校は国公立への進学率が高く、東京大学合格者も毎年のようにいるそうです。また宮古地区の子ども達の問題行動は、県内の他の地区に比べて少ないと、聞いたことがありました。

この高校入試の風物詩は、地域や家族に包まれた教育で、宮古地区の「へき地からの逆照射」であると思います。日本の一隅にある宮古地区から、日本全体に誇れる取組であると思います。各学校とも、今まで大切にしてきた実践を継続していくことが、へき地からの逆照射になっていくと思います。